

院長就任あいさつ

このたび県立安芸津病院長を拝命致しました後藤俊彦です。早いもので私が安芸津病院に勤務させていただき18年が経過しました。この間安芸津病院は国の医療費抑制政策や臨床研修医制度の導入など時代の流れに翻弄され続けました。150床から100床へのベッド数の減少、産婦人科、皮膚科、耳鼻科、小児科常勤医の退職、内科常勤医の定数割れなど多くの困難に直面しました。さらに昨年7月には豪雨災害のため安芸津地区および周辺地区に甚大な被害もたらされました。被災されました皆様にはこの場をお借りし心よりお見舞い申し上げます。当院も例外ではなく、地下の電源、給食設備などが水没し病院機能が停止寸前でした。しかし医療および事務スタッフの獅子奮迅の努力、さらに地域の皆様の御理解と御協力により異例の速さで診療再開にこぎつけることができました。院内給食の再開は2月にもつれ込みましたが無事再開できました。種々の困難を乗り越え安芸津病院は現在もしっかりと機能しています。これも皆様の御協力の賜物と心より感謝いたしております。今後も多くの困難に直面するでしょう。しかし職員一同協力しながら少しずつ前進して行く所存であります。今後とも安芸津病院をよろしくお願いいたします。「私たちは地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします」という病院理念を守り、また先達の残した歴史と伝統を引き継ぎ、それを後人に伝えることが自分の使命であるとの信念に基づき今日も医療現場に立つ。



薬に頼らない認知症治療

認知症看護認定看護師 小早川 由佳

私事ではございますが、先日入籍を致しました。結婚に伴い、実家からアルバムが送られてきました。写真を眺めていくうちに、「こんなこともあったなあ」と懐かしさが込み上げました。

認知症の症状には記憶障害があります。記憶障害は病気の進行とともに重くなり、覚えていられる時間も短くなります。しかし、昔の記憶はいつまでも本人の心の中に残っています。昔好きだった唄や、旧友との再会に笑顔があふれ、医療者や家族も驚くほどの反応を見せてくれることがあります。認知症の予防・

進行を抑える治療法に回想法というものがあります。回想法では、薬は使いません。必要なのは思い出です。自分が生きてきた歴史や使い慣れた物を思い出し、周囲の方と語り合うことで、自尊心の保持や不安の除去に繋がることが解ってきています。特に軽度認知症の方では症状改善の効果が高いとも言われています。また、認知症の方にかかわる医療者や家族の認知症の方への対応をより良くする効果も期待されています。現在は回想法で使用する書籍も販売されており、私も使用しています。認知症患者さんには、私たちの想像以上に無限の可能性がります。時には思い出を語り合ってみませんか？



麻しん(はしか)風しん(三日ばしか)対策について

現在、国内で麻しん・風しん患者が増えています。麻しんは空気を介して感染し、感染力が強く、合併症を起こして亡くなることがあります。風しんは咳やくしゃみ、会話などで飛び散るしぶき(飛沫)を吸い込んで感染します。妊娠中の女性(特に妊娠20週頃まで)に感染すると、赤ちゃんが先天性風しん症候群(心疾患・白内障・難聴)をもって生まれてくる可能性があるため、注意が必要です。

感染症は、その集団の中で、免疫を持っている人が十分にいれば、周りに広がることはなく、流行になることはありません。

そのため、2006年度から現行のMR(麻しん風しん混合)ワクチンの定期接種2回が始まりました。

(第1期:1歳代で1回接種、第2期:小学校入学の前年に1回接種)

現在中学3年生以下は現行の2回接種を受けており、24歳までの人も3期か4期を受けていれば2回接種が済んでいます

が、25歳以上の人は2回接種の機会は、個別に受けていない限り、ありませんでした。

今回、厚生労働省は風しんワクチン接種の機会が1度もなかった1962年(昭和37年)4月2日から1979年(昭和54年)4月1日までの間に生まれた男性を対象に、抗体検査を行った上で、予防接種法に基づいた風しんの第5期の定期接種を行うことにしました。



対象となる男性は、2022年3月末までの間、市区町村により送付されるクーポン券を使用すれば、原則無料で抗体検査及び定期接種を受けられるようになります。

2019年度は、1972年(昭和47年)4月2日~1979年(昭和54年)4月1日生まれの男性に市区町村がクーポン券が送付されます。

2019年度にクーポン券が送付されない対象者も、市区町村に希望すればクーポン券を発行し、抗体検査を受けられます。自治体により事業の開始時期や対応が異なるため、詳しくは、お住まいの市区町村にお問い合わせください。

麻しんや風しんどちらかにかかったことがある人でも、MRワクチンを接種しても健康への影響に問題はなりません。ワクチンを打って集団(地域)で感染症を予防しましょう。

感染管理認定看護師 吉田美香

